

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P <http://www.kohitsuji.or.jp/>
発行人：稲松 義人
印刷所：SRS株式会社
定 価：一部30円
2013年9月20日
第**364**号

実践と研究と企画と

理事長 稲松 義人

社会福祉の世界に限ったことではないかも知れないが、仕事の中で日常的に英語を語源とするカタカナ語が使われることが多くなった。介護サービスを利用されるお年寄りも、ケアマネージャーを「ケアマネさん」、ホームヘルパーを「ヘルパーさん」と呼び、デイサービスを「デイ」と言って会話するのをたびたび耳にする。「明日は、ヘルパーさんはお休みしてもらって、ケアマネさんとデイの見学に行くことにしました。」という感じである。

日常生活の中では、もともとの語源はあまり重要ではなく、それぞれの言葉の示す実態の方が大切である。そこにこそ生活の主体者である人の「福祉」の実感があるからである。

一方、研究対象が福祉実践であったとしても理論的に整理しようとする大学の先生や、制度上の仕組みを考える行政の企画担当者など、理論的に考える立場の者は、言葉の意味を問う。例えば、ケアマネジメントの「ケア」とは何を指すのか、「マネジメント」とはどのような行為なのかを明確にしなければ、実践を一般化し、社会的な共通理解を進めることはできない。

いわゆる現場で働く私たちが、「実践

こそが福祉の本質である」と言いきつてしまい(確かにそうだと思うが)、考証の努力を放棄してしまえば、よりよい実践へと改善する力は弱まってしまふ。確かに理論的に整理をしなくても、経験を積み重ねていくことから改善は為されるだろうが、新しい情報が世界を飛びまわり、社会的な環境が日々変化していき、見えない世界の影響の中で生きていかざるを得ない時代にあつては、経験だけを頼りにして、一般的な枠組みを整えることはできない。

さて、小羊学園の仕事もまた実践である。必要な支援を託された人たちがよりよい生活を送れるように必要なサービスを提供していくことが私たちの仕事である。創立以来、諸先輩たちは、与えられた環境の中で、自分たちにできることを精一杯してきたのだろうと思っ

ている。そして、そのことを継承したいと思っている。しかし一方で、「社会福祉施設」という制度の枠組みをベースにした実践のあり方を考え直してみる時代が来ていると感じている。「施設」と否定しているわけではない。施設には、今の時代の施設としての役割があると思っている。例えば、創立の時から、知的ハンディのある子どもたちとご家庭への支援をしているが、それらの人たちを取り巻く様々な環境は、50年前とは著しく変化している。実践は明らかに変化していかなければ

ばならない。

社会福祉の実践において、「施設から地域へ」と言われるようになって久しい。しかし、「地域」とは何かという問いに対する答えはまだまだ定まっていけないように思う。少なくとも「施設」とか「地域」というのは、実践のなされる場所ということだけではない。

社会福祉が発展する過程の中で「施設」での実践に枠組みを与えてくれた行政の努力があつた。しかし今、私たち施設で実践する者たちが、この枠組みを超えた実践に消極的になつてきているように思う。枠組みを超えた実践には、経済的な裏付けが得られず、場合によってはルール違反という非難を受ける場合もある。私のような施設経営の責任のある立場の者が躊躇している間にも、いわゆる現場で、支援を求めてくる一人ひとりの問題に向き合っている職員たちのところには、今の枠組みでは解決できない課題が山積している。

社会福祉の実践のあり方について研究しておられる方たち、また、新しい枠組みづくりに奮闘しておられる行政の担当者の方々と、実践の場で経営を担う私のような立場の者が一緒に協賛し、検討することから新しい枠組みが示されること願っている。

そのことに何年も費やすいとまはない。流行語ではないが、まさしく「いまだしよー」と思っている。

「ぱるしあ始まりました！」

ぱるしあ施設長 舟橋 暢

ぱるしあ開設までの流れ



小羊デイケアホームの物理的な問題で希望利用者の受け入れが難しくなってきた事は以前のつぶえで紹介させて頂きました。状況を打開するためには手狭になった環境を広げるしかなく、法人内の会議で検討を重ねた末、将来のニーズに対応するためにデイケアホーム敷地以外の場所にサテライト型の日中活動スペースを設置する事となりました。これは生活介護事業小羊デイケアホームの課題だけではなく、中区高丘で展開している放課後等デイサービスはびるすの利用者の受け皿の限界と云う課題と重なるものがあり、双方の課題を解決できる形を模索してきた結果から新

しい施設開設の方向が定まりました。

計画を進める中、立地条件や建物の取得、利用者の受け入れの体制、職員の確保等様々な課題に直面しました。西区大山町に以前工場事務所だった建物付きの中古物件を見つけ、購入の方向で理事会・評議員会の承認を得るまでは暗中模索の状態で、新たな利用希望者に対して受け入れ可否の返事もできずにいる状況でした。平成25年2月になってようやく大山町での開設が正式に決まり、デイケアホームのサテライト型の日中活動場所と放課後等デイサービスが共存して展開していく方向に目処が付いたのです。

2階建ての物件の購入が可能になった事でデイケアホームからは7名の利用者が本体とは離れて日中活動を行うことを決めました。手狭であったデイケアホーム本体にも空間の余裕を持たせる目的があつたからです。ぱるすの立場としても、それまで受け入れてきた子供の数を減らす事が出来ると共に新たなニーズにも対応できる事や、幅広く受け持っていた地域性の問題を解決でき

る利点がありました。十分とは言えませんが、2つの空間を持たせたことで1階をデイケアホームの日中活動スペース、2階を放課後等デイサービスの療育の場となるスペースとの使い分けが決まったのです。またデイケアホームとしては、2か所に分かれて活動を行う事で落ち着いた環境の提供と活動の設定に広がりを持たせる事にも繋がります。

新しい施設の名前は「ぱるしあ」です。「ぱるしあ」は小羊デイケアホームの職員の募集により名称を決定させて頂きました。ギリシヤ語で聖書的には神の訪れる場所、神と共にある者、永遠に続く勝利との意味があります。「ぱる」には仲間・友人の意味があり、子供たちが放課後、元気に通う姿を微笑ましく想像させられます。ぱるしあと名前が決まった時点で不透明だった将来が明るく感じたのを覚えています。しかし、その頃はまだまだ新事業立ち上げの課題は山積みでした。

事業計画を進めていく中で様々な階段を登って行きました。その中でも労力を費やしたのが改修の内容で、設計士や業者と入念な打ち合わせを行い利用者や職員の使い易さを検討しましたが、改修工事終了が7月15日となつてしまつたため当初希望していた年度始めからの事業開始には間に合いませんでした。しかし4月からの希望利用者を受け入れるために大山町のぱるしあが出来上

がるまで間、小羊デイケアホームはサテライト型の日中活動場所として三方原スクエア内のひとつのユニットを借りて活動を行い、放課後等デイサービスは小羊デイケアホーム近くにある使わなくなったケアホームを利用し日中一時支援事業として子供たちを受け入れてきました。

4月からデイケアホームの7人の利用者は新しい日中活動の場に変わりました。環境の変化が苦手な利用者にとっては不安を感じた事と思います。しかし環境が変わつてもデイケアホームで培った支援体制はそのままに利用者の主体的な活動プログラムの提供を続けていきたいと思っています。ぱるしあでの支援は、ぱるすからのノウハウを受け継ぎつつ、ぱるしあ独自の個性を作り上げていきたいと思っています。ぱるすから移ってきた子供たちや新規利用の子供が徐々に増えてくる中、ぱるしあとしてのカタチが出来上がるにはまだまだ時間がかかるでしょう。今後、子供たちがデイケアホームの利用者やスタッフと



のふれあいを通してながら元気な姿を見せてくれる事を期待しています。

施設の概要と具体的な支援

デイケアホームの紹介は以前報告しておりますので今回は放課後等デイサービスを中心に説明します。

ぱるしあは放課後等デイサービスという事業で、平成24年4月に障害者自立支援法・児童福祉法の一部改正によって障害のある(療育が必要と認められる)子供たちの学齢期における支援の充実のために創設されました。障害児のための学童保育と表現すると多くの皆様に理解していただけます。障害のある子供たちに対して、放課後や長期休暇中におけるの日常生活動作や、集団生活への適応訓練等の支援の場であるとともに、放課後の居場所でもあります。家族の代わりに一時的にケアを代替することで日々の疲れ等をリフレッシュしていただく家族支援の役割も大きいのです。

ぱるしあは浜松市西区大山町に位置しています。西区は広く浜名湖の近くを



想像されるかもしれませんが、ぱるしあは姫街道沿いに面しており三方原スクエアから車で2分ほどの所にあります。小羊デイケアホームからも距離は離れておらず、連携の取り易い立地だと感じています。児童の利用定員は10名で4名のスタッフで児童の支援にあたっています。

利用時間や日数は定められた支給量の中でご家族の状況によって利用を決めてもらっています。送迎サービスに関しては、基本的には特別支援学校のスクールバスのバス停までの迎えを実施しており、聖隷クリストファー高校や細江総合運動公園まで車で迎えに行っています。現在のところ受け入れ校は浜北特別支援学校や西部特別支援学校ですが、発達支援学級からの受け入れも出てきました。学校からぱるしあに来てからの活動プログラムは個人に合わせて行っており、近くの公園への散歩や、ドライブに出掛ける時もあります。外に出掛ける事は楽しみだけではなく社会のルールを学ぶ場でもあるので、道路は右側の隅を歩く事や車に気をつける事を伝えます。信号や横断歩道の渡り方も覚えていかなければならない児童もいるでしょう。また室内活動においては絵本を読んだり、好きなオモチャで遊ぶなどスタッフと楽しい時間を過ごしますが、他児との協調性を育む大切な時間でもあります。そして迎えの時間、保護者が迎えにきた時の子供たちの表情は輝い

ています。その日の学校やぱるしあでの過ごし方が充実していたか表情で読み取ることが出来ます。引き渡しの際にはスタッフからお預かりした子どもの様子を話したり、ご家庭での様子を伺ったりしています。保護者からの情報は大変貴重です。ぱるしあでの支援に参考になる事柄は吸収して子供たちの放課後支援にできるだけ役立てるようにと心掛けています。

放課後等デイサービスとしては始まったばかりです。室内は十分な広さがあるとは言えませんが、利用者に不都合がないようにスタッフ一同で検討した配慮が設備等に表れていると思います。空間的に不十分な所は1階と2階で補い、屋外も上手に活用しながら利用者やご家族に寄り添える支援をしていきたいと思っています。

開設後の展望

7月22日、新しい建物で放課後等デイサービスぱるしあと生活介護事業所小羊デイケアホームが一体となって運営していく新しい形が始まりました。放課後等デイサービスとしては主に浜松市北区寄りの方々にとって利用して頂きやすい施設でありたいと思っています。学校帰りの放課後や長期休みにぱるしあで楽しく、有意義な時間を過ごすことができるよう子供たちの支援にあたりたいと思います。またご家族の負担の

軽減のみならず、ご家庭と協力しながら発達に心配のある子供たちが大人になつた時、社会の中で十分な力を発揮してゆけるよう、成長や発達を見つめ学齢期に合った支援を行いたいと思っています。

生活介護事業小羊デイケアホームとしては、地域で暮らす知的に重いハンデイを持った利用者を受け入れていく在り方は変わりありません。地域の中にはまだ通う所がなく自宅生活を送っている方もいます。特別支援学校に通い、将来を生活介護事業所にと希望されている児童も大勢いる中、サテライト型の施設を設けたとしても利用者の受け入れには限界があります。今は新しいカタチの中で利用者が豊かに生活を送れるよう、放課後等デイサービスと一体となつて支援体制を整えなければならぬと感じています。ご家族の皆様をはじめ、関連機関の皆様にはより一層のご指導とご協力を承りたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。



在宅支援センターぱびるす



ぱびるす 10人乗りワゴン

- ①品 目…児童送迎用車両
(日産キャラバンコーチ 10人乗り)
- ②補助額…1,366,000円
- ③用 途…児童デイサービスおよび放課後等デイサービスにおける、学校・家庭の送迎や外出等の利用

支援センターわかぎ



わかぎ 29人乗りマイクロバス

- ①品 目…マイクロバス
(日産シビリアン 29人乗り)
- ②補助額…3,027,000円
- ③用 途…施設利用者の作業活動および余暇活動時の外出等の利用

地域の皆様、ありがとうございました！



赤い羽根共同募金

平成24年度 共同募金受配報告

社会福祉法人小羊学園では、平成24年度共同募金会に左記の受配申請を行い、審査・受配決定を経て整備いたしました。赤い羽根共同募金会を通じ、ご寄付いただきました地域住民の皆様にご報告申し上げ、ご厚意に感謝いたします。整備しました車両は利用者の生活を豊かにするために、大切に使用させていただきます。

公益信託市川園の助成をいただく

浜松市北区細江町にある「温心寮」(従たる事業所：ひだまり)が、公益信託市川園社会福祉基金の助成を受け、老朽化したキッチンを新しいシステムキッチンに改修いたしました。補助内容は左記の通りです。

- ①品 目 システムキッチン
- ②総 額 1,107,360円
- ③補助額 530,000円
- ④完了日 25年8月30日

助成をいただいた、公益信託市川園様にお礼申し上げますとともに、紙面をもつて皆さまにご報告いたします。

フェスタつばさのご案内

日 時 平成25年9月29日(日)
10時30分～15時00分
ところ つばさ静岡
(静岡市葵区城北117)
イベント スンプレンジャー Peace、和太鼓
アフリカドラムアイニケ、
城北高校吹奏楽部、
フリーマーケット、屋台各種
問合せ つばさ静岡 TEL:054(249)2830

小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

7月受付分 478,000円 (38件)
累 計 1,110,149円 (101件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まり、日本中が歓喜に沸いた。プレゼンテーションに参加した義足のアスリート藤選手言葉に多くのIOC委員が胸を打たれたとのこと。オリンピックの理念であるスポーツを通じた世界平和に、障がいのある人たちが交え、真の平和社会が構築されることを願うと同時に復興支援も忘れてはならない。身近では、オリブの樹利用者のNさんが、車いすサッカーに情熱を燃やしている。さらなる活躍と、スポーツを通して自己実現を願う。

今年の夏は、猛暑を通り越し酷暑でした。夏の疲れを残さぬよう、どうぞ皆さまお身体ご自愛ください。(F)